

令和3(2021)年度日本測量者連盟オンライン報告会の概要

FIGの年次会合であるWorking Week(作業週間)が2021年6月20日から25日までオンラインで開催されました。その概要を同年9月28日にJFS報告会で報告しました。新型コロナ感染予防の観点から、JFS報告会としては初めてオンラインで開催しました。また、新たな試みとして、報告会の録画をDVDに収録して会員に配布しました。報告の概要は以下の通りです。

1. 作業週間と総会の報告(村上総幹事)

2021年は新型コロナ感染の収束が見通せないため、FIGとしては初めてのオンライン開催となりました。会合には110カ国から1301名の参加登録がありました。

総会においては、決算・予算案等の承認のほか、2人の副会長の選挙等が行われました。当選した副会長のうち1人はFIGの143年の歴史上初めてのアフリカからの選出です。

2. 第3分科会(空間情報の管理)の報告(平田分科会委員長)

Spatial Information Management(SIM)が第3分科会の眼目です。実践と標準化を発展させるための国際的な議論の場を提供し、空間情報の相互運用性を図るための取り組みを担っています。最近の重点課題として地理空間ビッグデータなどが挙げられます。SDGs(持続可能な開発目標)を達成するために国連加盟国を支援する提言を取りまとめています。

3. 第5分科会(測位と測定)の報告(宮原分科会委員長)

第5分科会はFIGの他の分科会や国際機関との連携等を通じて技術開発を促進しています。その1つが「高さ基準系」で、高さの基準の国際統一化について議論がなされました。正確なジオイド・モデルとGNSSを利用して、高さ基準系の国際ルール(IHRS:International Height Reference System)を定義し、その実現を目指すという取り組みです。

4. 第7分科会(地籍と土地管理)の報告(海津分科会委員長)

地籍や土地登記の制度が十分に機能しないために健全な土地取引や課税等が阻害されている状況に対し、現状を正しく記述し管理することにより、土地所有の権利の保護、市場と投資の発展、社会の持続的な発展を支えようというのが第7分科会の問題意識です。LADM(Land Administration Domain Model:ISO規格の1つ)が大きな課題のひとつです。

5. 第11分科会(ヤング・サーベイヤーズ・ネットワーク:YSN)の報告(藤井分科会委員長)

FIGに属する若い測量技術者を分野横断的につないでいるのがYSNです。測量を通して各地の問題や課題について議論して交流を深める場となっています。プラスチックごみ問題などの現実的な問題にフォーカスするようになってきています。

なお、FIGでは幅広い分野に対応していますが、現在のところJFS報告会でカバーできているのは上記の総会と分科会です。